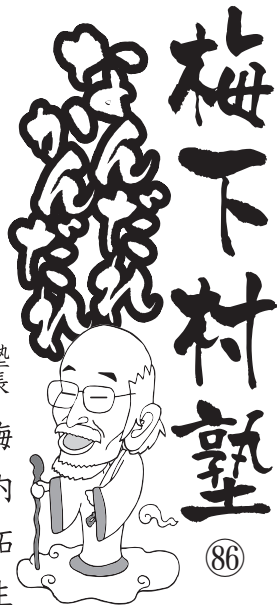


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(環境対策と生活の知恵)
東日本大震災と原発事故、中国からの黄砂と微粒子の飛来、北朝鮮の核実験、急激な寒暖、豪雨、豪雪などの気候変動、今や世界は生存のための地球環境と生活への対応を真剣に考えなければならぬ事態を迎えている。これは、気仙地方ではどうなっているのだろうか。

3月5日(火)の東海新報第5面の投稿欄に「海水循環で迷案・珍案 大船渡市三陸町越喜来 平田栄夫」が掲載されている。それは、「湾口防波堤の建設が既に始まっている現在、湾内の汚れは外海との海水循環の不十分と、川からの汚泥の流入が主原因である」とは言うまでもない。ここでは、その汚泥を出来るだけ少なくする方法を述べてみたい」として、「大雨などで川から流れて来る汚泥

などは、自然の営みで簡単に止めることは出来ない」、「このことを認識した上で、「河口近くに川幅いっぱいすり鉢状の穴を掘って、その穴に一時的に流れてきた汚泥を止める」とと提案している。汚泥の沈殿槽の建設による沈殿汚泥と非沈殿汚泥との分別すれば、沈殿汚泥の処理が容易になるという提案である。空気と水の循環は地球レベルで考える必要がある時代を迎えているのである。平田栄夫氏の提案はこの認識とつながっている。湾口防波堤の建築費に比べたら、このための費用はごく少ないものになるだろう。湾内浄化の機能も有効に作動する可能性が高いと考えられる。行政は、草の根の知恵に耳を傾ける時が来ている。世迷言には「北海道を襲った大暴風雪によって8人が死亡したと

いうニュースにやりきれない思いをしたのは、自然の猛威が予測しにくいことを誰もが知っているながら、自分にはふりかかると油断しがちなことが思わぬ結果につながることを痛感したからである」と述べている。

9歳の長女をかばって覆いかぶさっていた父親は既に凍死していた」と述べている。なんでも自宅の間近まで来ての事故だったらしい。広い北海道で生活するときに、犬を飼っていたなら、大いに役立ったろうと思ったのである。

吹雪の中でも笛で犬を呼べば、犬は間違いない。吠え声の聞こえなく飼いの主のところに近づくと思う。犬は飼いの主を暖めることも出来るし、雪の中を近くにある自宅まで導いてくれる。北海道など雪国で犬を飼うのも生活の知恵であると思う。

(気仙地域文化の魂の継承)
東海文芸 高田短歌 会 2月
金野 義雄
小正月の朝陽やわらかに木々の枝 雪花満つる神似の世界
高台の津波を避ける槌

音は 貝塚の民の知恵なるごたま

返歌
山川海神の姿と心あり
古人の知恵を想うり

新沼志保子
けさ晴れて白田のつづく山裾を 鹿の六頭疾風のまじ

雪止めど頼射る寒さ言
い訳に 剪定休む大寒のけふ
返歌

里に雪鹿は走りて我休む
雪に生き抜く術はそれぞれ

鈴木チカ子
疎なる青菜を啄む冬鳥よ
我が食む青菜をいかに味わう

山陰り海は波立ち飛沫あげ
仮設路走る風は窓打つ
返歌

冬鳥は疎なる青菜を啄にけり
山鳴り海鳴り仮宿にこもる

大和田勝代
岸壁に意志の香漂う海の春
緑あざやかに湯通し若布

農免道は新築フッシュ
津波後の 街なみなる
かり山の裾

返歌
海の春緑鮮やかその岸

を 離れて暮らす知恵が生まれる

これらの詠作品は(気仙地域文化の魂の継承)につながっており、それが滲みでております。

(東海新報記事から)

(環境対策と生活の知恵)と(気仙文化の魂の継承)を梅下村塾の原稿に記述しながら、気仙地方が国内外に発信すべきものについて考えました。

今朝の3月8日(金)の読売新聞の第1面の「編集手帳」に米国の大統領だったケネディ大統領とジョンソン大統領と民主統選出の大統領の後に共和党から大統領になったニクソン大統領が自国の経済を守るために金・ドル交換停止という力による手段を取ったこと、その多大な影響が日本を苦しめたが、外交面でこれをなんとか治めようとして、昭和天皇が欧州訪問をする途中に、米国アラスカで飛行機の給油のためにアンカレッジに立ち寄り、そこに出席して天皇陛下と米国の大統領による史上初めての会見を実現させている。まさにあっげきな

外交手腕である。日本は米国のこのような外交に対して、日本の立場を世界に発信することはしなかったし、出来なかったと思う。それは、日本の政治家やこれを支える官僚やマスコミを始めとする政治風土が、このようなしたたかな外交を常日頃から、考えてこなかったためである。

中国共産党政府による北京の天安門広場の民主化運動の弾圧は世界から、大きな批判にさらされた。天皇の訪中は、この非難を和らげるために利用されたのである。宮澤首相も橋本北京大使も国際外交のしたたかさが身につけていないので、中国の手によって踊らされたのです。これが日本外交の実情なのである。

北朝鮮の核武装、韓国と日本との外交は「ごねごと」外交の感がしています。それに中国、ロシア、TPP外交を迫る米国、国際間の政治と経済、外交は鉄火場が常です。まさに今こそ気仙の地から、(環境対策と生活の知恵)と(気仙文化の魂の継承)を世界に発信すべき時です。